

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ設置者	コリツカ'イ'カ'ホジ'ン アキタ'コリツ'ビ'ジ'ユツ'カ'イ'ク 公立大学法人 秋田公立美術大学								
フリガナ大学の名称	アキタ'コリツ'ビ'ジ'ユツ'カ'イ'ク 秋田公立美術大学大学院（Graduate School of Akita University of Art）								
大学本部の位置	秋田県秋田市新屋大川町12番3号								
大学の目的	秋田公立美術大学大学院は、学部における教育成果を基盤に、多様化する現代芸術領域と複雑化する地域課題に対応しながら、複合的な教育・研究を通じて、一人ひとりの個性を尊重した専門性のさらなる深化を追求し、新たな芸術表現の創出やより本質を捉えた地域貢献を担うことができる高度な実践力と専門性を兼ね備えた人材を育成することで、現代芸術領域及び秋田市をはじめとする地域への貢献を果たしていくことを目的とする。								
新設学部等の目的	複合芸術研究科複合芸術専攻博士課程は、学部で磨いた多様な表現力、修士課程で修得した複合性を理解した実践力を礎に、現代芸術の「複合の視点」からの理論化を試みる研究を行うことで、現代芸術領域及び社会に新鮮な視点や思考の転換を発信し、新たな道筋を示しながら現代芸術領域の拡張と持続可能な社会の構築に広く貢献する表現者、リーダー及び研究者を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部・研究科】美術学部美術学科・複合芸術研究科複合芸術専攻（修士課程）14条特例の実施
	複合芸術研究科 [Graduate School of Transdisciplinary Arts] 複合芸術専攻博士課程 [Course of Transdisciplinary Arts] 計	年	人	年次人	人	博士(美術)	平成31年4月 第1年次	秋田市新屋大川町12番3号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	複合芸術研究科	0科目	8科目	0科目	8科目	17単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	複合芸術研究科複合芸術専攻（博士課程）	9人 (9)	4人 (4)	人 (-)	人 (-)	13人 (13)	6人 (6)	人 (-)
		計	8 (8)	4 (4)	(-)	(-)	13 (13)	6 (6)	(-)
	既設	複合芸術研究科複合芸術専攻（修士課程）	8人 (8)	3人 (3)	人 (-)	人 (-)	11人 (11)	6人 (6)	22人 (22)
計		8 (8)	3 (3)	(-)	(-)	11 (11)	6 (6)	22 (22)	
合計		9 (9)	4 (4)	(-)	(-)	13 (13)	6 (6)	22 (22)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		23人 (23)		12人 (12)		35人 (35)		
	技術職員		-		2 (2)		2 (2)		
	図書館専門職員		1 (1)		2 (2)		3 (3)		
	その他の職員		-		1 (1)		1 (1)		
計		24 (24)		17 (17)		41 (41)			

校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	35,913.38㎡	0 ㎡	0 ㎡	35,913.38㎡				
	運 動 場 用 地	7,750.00㎡	0 ㎡	0 ㎡	7,750.00㎡				
	小 計	43,663.38㎡	0 ㎡	0 ㎡	43,663.38㎡				
	そ の 他	3,370.62㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,370.62㎡				
	合 計	47,034.00㎡	0 ㎡	0 ㎡	47,034.00㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
		19,719.94㎡ (19,719.94㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	19,719.94㎡ (19,719.94㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	7 室	18 室	39 室	7 室 (補助職員 1 人)	1 室 (補助職員 1 人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		複合芸術研究科複合芸術専攻		9 室					
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	複合芸術研究科 複合芸術専攻	57,662 [10,852] (56,196 [10,536])	386 [305] (386 [305])	305 [305] (305 [305])	1,545 (1,500)	3,763 (3,746)	0 (0)		
	計	57,662 [10,852] (56,196 [10,536])	386 [305] (386 [305])	305 [305] (305 [305])	1,545 (1,500)	3,763 (3,746)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				
		1,194.41㎡		137	108,000				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体		
		1,113.27㎡		テニスコート1面			—		
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等		540千円	540千円	540千円	— 千円	— 千円	— 千円
		共同研究費等		3,000千円	3,000千円	3,000千円	— 千円	— 千円	— 千円
		図書購入費	2,250千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円	— 千円
		設備購入費	5,994千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円	— 千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	①818千円 ②959千円	536千円	536千円	— 千円	— 千円	— 千円	①秋田市民 ②①以外の者		
学生納付金以外の維持方法の概要		市からの運営費交付金収入、雑収入 等							
既設大学等の状況	大 学 の 名 称	秋田公立美術大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	美術学部 美術学科	4 年	100 人	年次 3年次 10 人	420 人	学士 (美術)	1.02 倍	平成25年度	秋田県秋田市新屋大川町1 2 番 3 号
複合芸術研究科 複合芸術専攻 (修士)	2 年	10 人	0 人	20 人	修士 (美術)	1 倍	平成29年度	秋田県秋田市新屋大川町1 2 番 3 号	
附属施設の概要		名 称：社会貢献センター 目 的：社会貢献 所 在 地：秋田県秋田市新屋大川町1 2 番 3 号 設置年月：平成8年4月 規 模 等：土地4,315.80㎡、建物2,582.02㎡							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要														
(複合芸術研究科複合芸術専攻博士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
研究基盤科目	複合芸術研究法	1前	1				○		3				6	オムニバス・共同(一部)
	小計(1科目)	—	1				—		3					
研究展開科目	複合芸術表現研究Ⅰ	1通	2				○		7	2			3	共同
	複合芸術理論研究Ⅰ	1通	2				○		4	3			3	共同
	複合芸術表現研究Ⅱ	2通	2				○		7	2			3	共同
	複合芸術理論研究Ⅱ	2通	2				○		4	3			3	共同
	小計(4科目)	—	8				—		9	4			6	
研究指導科目	複合芸術特別研究Ⅰ	1通	2				○		9	4				
	複合芸術特別研究Ⅱ	2通	2				○		9	4				
	複合芸術特別研究Ⅲ	3通	4				○		9	4				
	小計(3科目)	—	8				—		9	4				
合計(8科目)		—	17				—		9	4			6	
学位又は称号		博士(美術)		学位又は学科の分野			美術関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
研究基盤科目1単位、研究展開科目8単位、研究指導科目を8単位、合計17単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、「博士論文」または「博士論文及び研究作品」の審査及び最終試験に合格すること。							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(複合芸術研究科複合芸術専攻博士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究基盤科目	複合芸術研究法	<p>本授業は、博士課程初期段階における研究の基本的なあり方に対する概論であり、複合芸術に対する深い洞察と新たな知見を獲得するための教育課程やスケジュールの確認を基点に、この後履修していく「複合芸術表現研究Ⅰ」と「複合芸術理論研究Ⅰ」に先立ち、「複合の視点」からの研究活動を概観する。その上で、自身の研究テーマとプロセスを重ね合わせる演習を通じて、グローバルに芸術表現活動を展開するために必要な技術力や表現力を身につけ、かつ自らの創造実践がもつ独自性を、歴史的・社会的文脈において言語化(理論化)し発信する博士像を具体的に想起する。</p> <p>(オムニバス/共同方式 全8回)</p> <p>(1 尾登誠一/2回)「ガイダンス」：複合芸術研究を開始するにあたり、博士課程の教育課程と研究スケジュールを確認・理解する。加えて、研究を進めるうえで必要となる博士のコンプライアンス、研究倫理と行動規範、オーサーシップ、社会的要請などを理解する。</p> <p>(5 岩井成昭/2回)「複合芸術が目指す領域横断性と独創性」：テーマに基づく複合芸術の研究をより明確にイメージするため、既往研究事例(作品事例・論文事例)などを参照しながら、複合芸術の本質である「内的運動」と「外的運動」の併走によって具体化される領域横断性と独創性を理解する。</p> <p>(5 岩井成昭・7 志邨匠子/2回)「研究・分析方法」：博士課程で進められる研究工程をより具体的に想定するため、テーマ設定、仮説設定、事例・文献調査、プロセス論、フィールドサーベイ、分析方法、展開方法、評価方法を理解したうえで、教員と意見交換をしながら、自身がどのような工程で研究を進めるべきかを考察する。</p> <p>(1 尾登誠一・5 岩井成昭・7 志邨匠子/2回)「表現研究と理論研究の概観」：複合の視点からの要素分析を通じた仮説の設定と、具体的な実践を基にした表現手法の検証など、表現研究と理論研究の相関のプロセスの過程で行われる自らの研究をイメージし、その概観を成果としてまとめ、複合芸術を基点とする理論に裏付けされた表現の拡張性と交換性を考察する。</p>	オムニバス・共同(一部)
研究展開科目	複合芸術表現研究Ⅰ	<p>本授業では学生各自の研究テーマに立脚する芸術表現とその方法論構築のための指導を行う。ここでは「複合」の試みを通じた実践による作品制作を芸術表現と定義したうえで、多様な表現を客観的に捉え分析することを前提に、各履修者の研究テーマを踏まえて、それぞれ2名の担当教員を配置し、テーマ設定・考案から作品制作としてまとめることを目的に指導を行う。担当教員の研究テーマは次のとおりである。</p> <p>(1 尾登 誠一) 機能デザインをベースとした総合的なデザイン論を踏まえて、科学と芸術、文明と文化という関係性の間にある価値基準を、精神と物質の相乗性として捉え、生活様式を軸にした多様な領域を横断しながら、モノ・コト、起業を含めた社会そのものを対象とする表現行為であるソーシャルデザインに関する研究指導を行う。</p> <p>(3 小田 英之) ビジュアルアートの視点に複合の観点を加えながら対象を読み解いたうえで、絵画やイラストレーション、CGをベースとしたグラフィックデザインなどのメディアを効果的に活用した複合的手法を通じて、表現の拡張を試みる研究指導を行う。</p> <p>(4 藤 浩志) 立体造形やコミュニティアートなどの表現手法と、文化イベントやアートプロジェクトの実践を踏まえながら、そうした取り組みを複合の視点から解釈し、過去の常識や経験則にとらわれないアートプロジェクトの実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 岩井 成昭) 現代芸術におけるリレーショナル・アートやソーシャリー・エンゲージド・アートなど、社会や地域に多様な価値をもたらすプロジェクト型アートを、その構成要素や構造に着目しながら理論的な裏付けをもって立案・展開していく手法に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 今中 隆介) モノを作る表現行為が、アート、デザイン、エンジニアリング、サイエンスが統合(複合)されて成り立っていることを踏まえ、プロダクトデザインやものづくり、社会を俯瞰するデザイン思考に基づく制作・提案やプロジェクトの組成・実践に関する研究指導を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(8 岸 健太) 地域や企業を含むコミュニティを対象として、それらを構成する多様な要素の動的な相関に着目し、アーバン・スタディーズの視点から、プロジェクトなどの不断に変化する表現の可能性と、それらを裏付ける仮説・検証を通じた表現と理論の具体化に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 飯倉 宏治) 情報科学の視点から、ITと芸術の複合による新しい表現や概念、考え方を掘り下げることで、情報技術の高度な活用と芸術の間に生まれる未知の表現領域の拡張と理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 萩原 健一) 対象物や対象地域に応じた映像表現の複合的な活用を通じて、メディアによる地域・人・事柄をつなぐ可能性を探究し、その際に生じる「新しい例外」にも着目しながら、従来とは異なる地域課題の解決手法や表現領域の拡張に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 服部 浩之) キューレーションの視点から、無意識な行為の意識化などを通じて、社会の中で新たな視点や価値を掘り起こし、理論に裏付けされた表現によって芸術に転換するプロジェクト及びアートマネジメントの展開とその理論化に関する研究指導を行う。</p>	
研究展開科目	複合芸術理論研究 I	<p>本授業では、論文を執筆する上で必要となる理論構築のための研究方法についての指導を行う。各自の研究テーマが、表現を主体とするのか、理論を主体とするのか、によって最終的な成果のあり方は異なるが、理論的に思考し客観的に文章化することは、どのような研究テーマであろうと必要である。したがって、(1)研究テーマと論文との関連づけ、(2)各自のテーマに基づく理論的な研究方法についての指導、(3)論文の構成についての指導、といった流れを通じ、複合的視点を重視しつつ、論文執筆に向けての基盤を作ることを目標とする。担当教員の研究テーマは次のとおりである。</p> <p>(2 白杉 悦雄) 現代芸術を中国科学史、中国及び日本の医学思想史、博物学、身体論、哲学等の視点に照らしながら、論理的な分析、哲学的課題の解釈、古典著作の読解など通じた複合芸術の理論化・体系化に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 志邨 匠子) 刻々と変化している現代芸術を、美術史研究の視点から学際的、多元的に考察することで芸術表現への新しい視座を与え、るとともに、本学の「複合芸術」が対象とする多様な試みを含めて、その成果検証と理論形成に関わる研究指導を行う。</p> <p>(8 岸 健太) 地域や企業を含むコミュニティを対象として、それらを構成する多様な要素の動的な相関に着目し、アーバン・スタディーズの視点から、プロジェクトなどの不断に変化する表現の可能性と、それらを裏付ける仮説・検証を通じた表現と理論の具体化に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 飯倉 宏治) 情報科学の視点から、ITと芸術の複合による新しい表現や概念、考え方を掘り下げることで、情報技術の高度な活用と芸術の間に生まれる未知の表現領域の拡張と理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 石倉 敏明) 地域を捉える民族誌学的なアプローチと人類史における芸術の役割について考察する人類学的視点により、アート・デザイン・クラフトの三領域の交点に位置する価値創造についての理論化と、実践と思考の相互作用についての研究指導を行う。</p> <p>(12 服部 浩之) キューレーションの視点から、無意識な行為の意識化などを通じて、社会の中で新たな視点や価値を掘り起こし、理論に裏付けされた表現によって芸術に転換するプロジェクト及びアートマネジメントの展開とその理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 唐澤 太輔) 粘菌をはじめとする自然現象の観察と夢やイメージ等の主観的・無意識的省察を複合した南方熊楠を対象とする生命論・宇宙論の視点から、研究テーマの性質や文脈に応じた論文の構成指導や、外的現実と内的現実を横断・複合する実践的方法論についての指導を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 展 開 科 目	複合芸術表現研究Ⅱ	<p>本授業では、「複合芸術表現研究Ⅰ」を踏まえ、引き続き、作品を制作する上で必要となる理論構築のための研究方法、文章表現に係る実践的な指導を行う。</p> <p>(1) 各自の芸術表現における社会的・芸術的コンテキストを明らかにする、関連文献の拡充 (2) 表現手法の再構築 (3) 実践的な制作指導</p> <p>上記のような流れを通じ、複合的視点を重視しつつ、博士課程の審査作品制作に向け、複合的視点・手法による独自性の高い芸術表現の実現をすることを目標とする。担当教員の研究テーマは次のとおりである。</p> <p>(1 尾登 誠一) 機能デザインをベースとした総合的なデザイン論を踏まえて、科学と芸術、文明と文化という関係性の間にある価値基準を、精神と物質の相乗性として捉え、生活様式を軸にした多様な領域を横断しながら、モノ・コト、起業を含めた社会そのものを対象とする表現行為であるソーシャルデザインに関する研究指導を行う。</p> <p>(3 小田 英之) ビジュアルアートの視점에複合の観点を加えながら対象を読み解いたうえで、絵画やイラストレーション、CGをベースとしたグラフィックデザインなどのメディアを効果的に活用した複合的手法を通じて、表現の拡張を試みる研究指導を行う。</p> <p>(4 藤 浩志) 立体造形やコミュニティアートなどの表現手法と、文化イベントやアートプロジェクトの実践を踏まえながら、そうした取り組みを複合の視点から解釈し、過去の常識や経験則にとらわれないアートプロジェクトの実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 岩井 成昭) 現代芸術におけるリレーショナル・アートやソーシャル・エンゲージド・アートなど、社会や地域に多様な価値をもたらすプロジェクト型アートを、その構成要素や構造に着目しながら理論的な裏付けをもって立案・展開していく手法に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 今中 隆介) モノを作る表現行為が、アート、デザイン、エンジニアリング、サイエンスが統合（複合）されて成り立っていることを踏まえ、プロダクトデザインやものづくり、社会を俯瞰するデザイン思考に基づく制作・提案やプロジェクトの組成・実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 岸 健太) 地域や企業を含むコミュニティを対象として、それらを構成する多様な要素の動的な相関に着目し、アーバン・スタディーズの視点から、プロジェクトなどの不断に変化する表現の可能性と、それらを裏付ける仮説・検証を通じた表現と理論の具体化に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 飯倉 宏治) 情報科学の視点から、ITと芸術の複合による新しい表現や概念、考え方を掘り下げることで、情報技術の高度な活用と芸術の間に生まれる未知の表現領域の拡張と理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 萩原 健一) 対象物や対象地域に応じた映像表現の複合的な活用を通じて、メディアによる地域・人・事柄をつなぐ可能性を探究し、その際に生じる「新しい例外」にも着目しながら、従来とは異なる地域課題の解決手法や表現領域の拡張に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 服部 浩之) キューレーションの視点から、無意識な行為の意識化などを通じて、社会の中で新たな視点や価値を掘り起こし、理論に裏付けされた表現によって芸術に転換するプロジェクト及びアートマネジメントの展開とその理論化に関する研究指導を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究展開科目	複合芸術理論研究Ⅱ	<p>本授業では、「複合芸術理論研究Ⅰ」を踏まえ、引き続き、論文を執筆する上で必要となる理論構築のための研究方法、文章表現に係る実践的な指導を行う。(1)論文執筆に必要な関連文献の拡充、(2)方法論の再構築、(3)実践的な論文指導、といった流れを通じ、複合的視点を重視しつつ、博士論文執筆に向け、明快で、理論的・客観的な文章表現を実践することを目標とする。担当教員の研究テーマは次のとおりである。</p> <p>(2 白杉 悦雄) 現代芸術を中国科学史、中国及び日本の医学思想史、博物学、身体論、哲学等の視点に照らしながら、論理的な分析、哲学的課題の解釈、古典著作の読解など通じた複合芸術の理論化・体系化に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 志邨 匠子) 刻々と変化している現代芸術を、美術史研究の視点から学際的、多元的に考察することで芸術表現への新しい視座を与え、とともに、本学の「複合芸術」が対象とする多様な試みを含めて、その成果検証と理論形成に関わる研究指導を行う。</p> <p>(8 岸 健太) 地域や企業を含むコミュニティを対象として、それらを構成する多様な要素の動的な相関に着目し、アーバン・スタディーズの視点から、プロジェクトなどの不断に変化する表現の可能性と、それらを裏付ける仮説・検証を通じた表現と理論の具体化に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 飯倉 宏治) 情報科学の視点から、ITと芸術の複合による新しい表現や概念、考え方を掘り下げることで、情報技術の高度な活用と芸術の間に生まれる未知の表現領域の拡張と理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 石倉 敏明) 地域を捉える民族誌学的なアプローチと人類史における芸術の役割について考察する人類学的視点により、アート・デザイン・クラフトの三領域の交点に位置する価値創造についての理論化と、実践と思考の相互作用についての研究指導を行う。</p> <p>(12 服部 浩之) キューレーションの視点から、無意識な行為の意識化などを通じて、社会の中で新たな視点や価値を掘り起こし、理論に裏付けされた表現によって芸術に転換するプロジェクト及びアートマネジメントの展開とその理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 唐澤 太輔) 粘菌をはじめとする自然現象の観察と夢やイメージ等の主観的・無意識的省察を複合した南方熊楠を対象とする生命論・宇宙論の視点から、研究テーマの性質や文脈に応じた論文の構成指導や、外的現実と内的現実を横断・複合する実践的方法論についての指導を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	複合芸術特別研究 I	<p>本授業では、博士論文・博士制作に関する指導を面談形式で行いながら、(1) 研究テーマの設定・研究計画立案、(2) 論文研究・年次制作の実施、および(3) 報告書の提出という流れを通じて、博士論文・博士制作に繋げる研究テーマの設定と研究計画の立案、さらには、そのテーマに基づく研究・制作の中に新たな試みを加え、複合的視点に立脚した一定の成果を得るとともに、研究の方向を定めようとして、本格的な研究に着手することを目標とする。研究指導教員の研究テーマは次のとおりである。</p> <p>(1 尾登 誠一) 機能デザインをベースとした総合的なデザイン論を踏まえて、科学と芸術、文明と文化という関係性の間にある価値基準を、精神と物質の相乗性として捉え、生活様式を軸にした多様な領域を横断しながら、モノ・コト、起業を含めた社会そのものを対象とする表現行為であるソーシャルデザインに関する研究指導を行う。</p> <p>(2 白杉 悦雄) 現代芸術を中国科学史、中国及び日本の医学思想史、博物学、身体論、哲学等の視点に照らしながら、論理的な分析、哲学的課題の解釈、古典著作の読解など通じた複合芸術の理論化・体系化に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 小田 英之) ビジュアルアートの視点に複合の観点を加えながら対象を読み解いたうえで、絵画やイラストレーション、CGをベースとしたグラフィックデザインなどのメディアを効果的に活用した複合的手法を通じて、表現の拡張を試みる研究指導を行う。</p> <p>(4 藤 浩志) 立体造形やコミュニティアートなどの表現手法と、文化イベントやアートプロジェクトの実践を踏まえながら、そうした取り組みを複合の視点から解釈し、過去の常識や経験則にとらわれないアートプロジェクトの実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 岩井 成昭) 現代芸術におけるリレーショナル・アートやソーシャル・エンゲージド・アートなど、社会や地域に多様な価値をもたらすプロジェクト型アートを、その構成要素や構造に着目しながら理論的な裏付けをもって立案・展開していく手法に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 今中 隆介) モノを作る表現行為が、アート、デザイン、エンジニアリング、サイエンスの統合(複合)によって成り立っていることを踏まえ、プロダクトデザインやものづくり、社会を俯瞰するデザイン思考に基づく制作・提案やプロジェクトの組成・実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 志邨 匠子) 刻々と変化している現代芸術を、美術史研究の視点から学際的、多元的に考察することで芸術表現への新しい視座を与え、その成果検証と理論形成に関わる研究指導を行う。</p> <p>(8 岸 健太) 地域や企業を含むコミュニティを対象として、それらを構成する多様な要素の動的な相関に着目し、アーバン・スタディーズの視点から、プロジェクトなどの不断に変化する表現の可能性と、それらを裏付ける仮説・検証を通じた表現と理論の具体化に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 飯倉 宏治) 情報科学の視点から、ITと芸術の複合による新しい表現や概念、考え方を掘り下げることで、情報技術の高度な活用と芸術の間に生まれる未知の表現領域の拡張と理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 石倉 敏明) 地域を捉える民族誌学的なアプローチと人類史における芸術の役割について考察する人類学的視点により、アート・デザイン・クラフトの三領域の交点に位置する価値創造についての理論化と、実践と思考の相互作用についての研究指導を行う。</p> <p>(11 萩原 健一) 対象物や対象地域に応じた映像表現の複合的な活用を通じて、メディアによる地域・人・事柄をつなぐ可能性を探究し、その際に生じる「新しい例外」にも着目しながら、従来とは異なる地域課題の解決手法や表現領域の拡張に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 服部 浩之) キューレーションの視点から、無意識な行為の意識化などを通じて、社会の中で新たな視点や価値を掘り起こし、理論に裏付けされた表現によって芸術に転換するプロジェクト及びアートマネジメントの展開とその理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 唐澤 太輔) 粘菌をはじめとする自然現象の観察と夢やイメージ等の主観的・無意識的省察を複合した南方熊楠を対象とする生命論・宇宙論の視点から、研究テーマの性質や文脈に応じた論文の構成指導や、外的現実と内的現実を横断・複合する実践的方法論についての指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 指導 科目	複合芸術特別研究Ⅱ	<p>本授業では、博士論文・博士制作に関する指導を面談形式で行いながら、研究指導を担当する主指導教員と副指導教員による複数体制で学生の研究・制作の指導に当たる。</p> <p>「複合芸術特別研究Ⅱ」の中で定められた研究テーマや研究計画に基づき実施した年次制作・研究、および提出された報告書の内容を踏まえて、本授業では、引き続き研究計画に基づき、後期に開催する博士論文等予備審査会、年度末に開催する第1回公開発表会での研究成果のプレゼンテーションに向けて、博士論文・博士制作の研究を進める。そして、3年次に提出する博士論文・博士制作における高度な提案への結実を目指し、自らの研究・制作をより一層発展・深化させることを目標とする。研究指導教員の研究テーマは次のとおりである。</p> <p>(1 尾登 誠一) 機能デザインをベースとした総合的なデザイン論を踏まえて、科学と芸術、文明と文化という関係性の間にある価値基準を、精神と物質の相乗性として捉え、生活様式を軸にした多様な領域を横断しながら、モノ・コト、起業を含めた社会そのものを対象とする表現行為であるソーシャルデザインに関する研究指導を行う。</p> <p>(2 白杉 悦雄) 現代芸術を中国科学史、中国及び日本の医学思想史、博物学、身体論、哲学等の視点に照らしながら、論理的な分析、哲学的課題の解釈、古典著作の読解など通じた複合芸術の理論化・体系化に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 小田 英之) ビジュアルアートの視点に複合の観点を加えながら対象を読み解いたうえで、絵画やイラストレーション、CGをベースとしたグラフィックデザインなどのメディアを効果的に活用した複合的手法を通じて、表現の拡張を試みる研究指導を行う。</p> <p>(4 藤 浩志) 立体造形やコミュニティアートなどの表現手法と、文化イベントやアートプロジェクトの実践を踏まえながら、そうした取り組みを複合の視点から解釈し、過去の常識や経験則にとらわれないアートプロジェクトの実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 岩井 成昭) 現代芸術におけるリレーショナル・アートやソーシャル・エンゲージド・アートなど、社会や地域に多様な価値をもたらすプロジェクト型アートを、その構成要素や構造に着目しながら理論的な裏付けをもって立案・展開していく手法に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 今中 隆介) モノを作る表現行為が、アート、デザイン、エンジニアリング、サイエンスの統合(複合)によって成り立っていることを踏まえ、プロダクトデザインやものづくり、社会を俯瞰するデザイン思考に基づく制作・提案やプロジェクトの組成・実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 志邨 匠子) 刻々と変化している現代芸術を、美術史研究の視点から学際的、多元的に考察することで芸術表現への新しい視座を与え、本学の「複合芸術」が対象とする多様な試みを含めて、その成果検証と理論形成に関わる研究指導を行う。</p> <p>(8 岸 健太) 地域や企業を含むコミュニティを対象として、それらを構成する多様な要素の動的な相関に着目し、アーバン・スタディーズの視点から、プロジェクトなどの不断に変化する表現の可能性と、それらを裏付ける仮説・検証を通じた表現と理論の具体化に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 飯倉 宏治) 情報科学の視点から、ITと芸術の複合による新しい表現や概念、考え方を掘り下げることで、情報技術の高度な活用と芸術の間に生まれる未知の表現領域の拡張と理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 石倉 敏明) 地域を捉える民族誌学的なアプローチと人類史における芸術の役割について考察する人類学的視点により、アート・デザイン・クラフトの三領域の交点に位置する価値創造についての理論化と、実践と思考の相互作用についての研究指導を行う。</p> <p>(11 萩原 健一) 対象物や対象地域に応じた映像表現の複合的な活用を通じて、メディアによる地域・人・事柄をつなぐ可能性を探究し、その際に生じる「新しい例外」にも着目しながら、従来とは異なる地域課題の解決手法や表現領域の拡張に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 服部 浩之) キューレーションの視点から、無意識な行為の意識化などを通じて、社会の中で新たな視点や価値を掘り起こし、理論に裏付けされた表現によって芸術に転換するプロジェクト及びアートマネジメントの展開とその理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 唐澤 太輔) 粘菌をはじめとする自然現象の観察と夢やイメージ等の主観的・無意識的省察を複合した南方熊楠を対象とする生命論・宇宙論の視点から、研究テーマの性質や文脈に応じた論文の構成指導や、外的現実と内的現実を横断・複合する実践的方法論についての指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	複合芸術特別研究Ⅲ	<p>本授業では、博士論文・博士制作に関する指導を面談形式で行いながら、研究指導を担当する主指導教員と副指導教員による複数体制で学生の研究・制作の指導に当たる。</p> <p>「複合芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ」において実施した年次制作・研究、提出された報告書、博士論文等予備審査、第1回公開発表会の内容、さらには、同時並行的に行ってきた「複合芸術表現研究Ⅰ・Ⅱ」および「複合芸術理論研究Ⅰ・Ⅱ」での成果を踏まえて、後期の博士論文等審査会、年度末の第2回公開発表会に向けて、博士論文・博士制作の研究を進める。そして、自らの研究・制作を複合的視点から既存の領域や価値観にとらわれない学術的・社会的に大きな価値を持つ博士論文及び研究作品という研究成果として結実させることを目標とする。研究指導教員の研究テーマは次のとおりである。</p> <p>(1 尾登 誠一) 機能デザインをベースとした総合的なデザイン論を踏まえて、科学と芸術、文明と文化という関係性の間にある価値基準を、精神と物質の相乗性として捉え、生活様式を軸にした多様な領域を横断しながら、モノ・コト、起業を含めた社会そのものを対象とする表現行為であるソーシャルデザインに関する研究指導を行う。</p> <p>(2 白杉 悦雄) 現代芸術を中国科学史、中国及び日本の医学思想史、博物学、身体論、哲学等の視点に照らしながら、論理的な分析、哲学的課題の解釈、古典著作の読解など通じた複合芸術の理論化・体系化に関する研究指導を行う。</p> <p>(3 小田 英之) ビジュアルアートの視点に複合の観点を加えながら対象を読み解いたうえで、絵画やイラストレーション、CGをベースとしたグラフィックデザインなどのメディアを効果的に活用した複合的手法を通じて、表現の拡張を試みる研究指導を行う。</p> <p>(4 藤 浩志) 立体造形やコミュニティアートなどの表現手法と、文化イベントやアートプロジェクトの実践を踏まえながら、そうした取り組みを複合の視点から解釈し、過去の常識や経験則にとらわれないアートプロジェクトの実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(5 岩井 成昭) 現代芸術におけるリレーショナル・アートやソーシャル・エンゲージド・アートなど、社会や地域に多様な価値をもたらすプロジェクト型アートを、その構成要素や構造に着目しながら理論的な裏付けをもって立案・展開していく手法に関する研究指導を行う。</p> <p>(6 今中 隆介) モノを作る表現行為が、アート、デザイン、エンジニアリング、サイエンスの統合(複合)によって成り立っていることを踏まえ、プロダクトデザインやものづくり、社会を俯瞰するデザイン思考に基づく制作・提案やプロジェクトの組成・実践に関する研究指導を行う。</p> <p>(7 志邨 匠子) 刻々と変化している現代芸術を、美術史研究の視点から学際的、多元的に考察することで芸術表現への新しい視座を与え、その成果検証と理論形成に関わる研究指導を行う。</p> <p>(8 岸 健太) 地域や企業を含むコミュニティを対象として、それらを構成する多様な要素の動的な相関に着目し、アーバン・スタディーズの視点から、プロジェクトなどの不断に変化する表現の可能性と、それらを裏付ける仮説・検証を通じた表現と理論の具体化に関する研究指導を行う。</p> <p>(9 飯倉 宏治) 情報科学の視点から、ITと芸術の複合による新しい表現や概念、考え方を掘り下げることで、情報技術の高度な活用と芸術の間に生まれる未知の表現領域の拡張と理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(10 石倉 敏明) 地域を捉える民族誌学的なアプローチと人類史における芸術の役割について考察する人類学的視点により、アート・デザイン・クラフトの三領域の交点に位置する価値創造についての理論化と、実践と思考の相互作用についての研究指導を行う。</p> <p>(11 萩原 健一) 対象物や対象地域に応じた映像表現の複合的な活用を通じて、メディアによる地域・人・事柄をつなぐ可能性を探究し、その際に生じる「新しい例外」にも着目しながら、従来とは異なる地域課題の解決手法や表現領域の拡張に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 服部 浩之) キューレーションの視点から、無意識な行為の意識化などを通じて、社会の中で新たな視点や価値を掘り起こし、理論に裏付けされた表現によって芸術に転換するプロジェクト及びアートマネジメントの展開とその理論化に関する研究指導を行う。</p> <p>(13 唐澤 太輔) 粘菌をはじめとする自然現象の観察と夢やイメージ等の主観的・無意識的省察を複合した南方熊楠を対象とする生命論・宇宙論の視点から、研究テーマの性質や文脈に応じた論文の構成指導や、外的現実と内的現実を横断・複合する実践的方法論についての指導を行う。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

公立大学法人秋田公立美術大学大学院設置認可等に関わる組織の移行表

平30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 複合芸術専攻(M)				10	-	-	20	
計				10	-	-	20	
秋田公立美術大学 美術学部 美術学科				100	10	10	420	
計				100	10	10	420	
秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 複合芸術専攻(M)				10	-	-	20	
秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科 <u>複合芸術専攻(D)</u>				2	-	-	<u>6</u>	研究科の専攻の設置 (認可申請)
計				<u>12</u>	-	-	<u>26</u>	
秋田公立美術大学 美術学部 美術学科				100	10	10	420	
計				100	10	10	420	